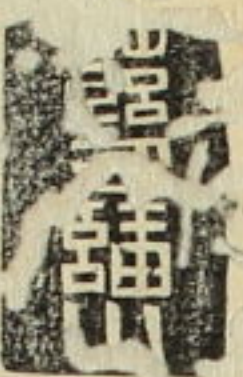


須知老流官人有志若者



史公立其傳以垂于不朽且

云天道恢々豈不大哉譚云

淑中亦可以解紛夫中華

頃東夏諧款吾言雖云



於心取於云其所以勞天之
竅鬼神者生歸一矣哉賀集
鄉花禮者天性腔將最善諧
款屋恒謂句不擊人亦不休
四歲漢之際口不能連有年

所矣以故句氣出盡奇驪
樂人心驚駭人耳者不為弗
多宜于斃方朔之流乎惜也
天不假其年古載丙午夏四
十有七羅激恙忽然逝矣時

弗惜乎哉。今茲友人某等不
忘其平生久要，欲輯諸好士
追悼，請作梓之以公于海內。
乞叙貧道之雅，固不文也。
美其朋友所攝，但花桂不朽。

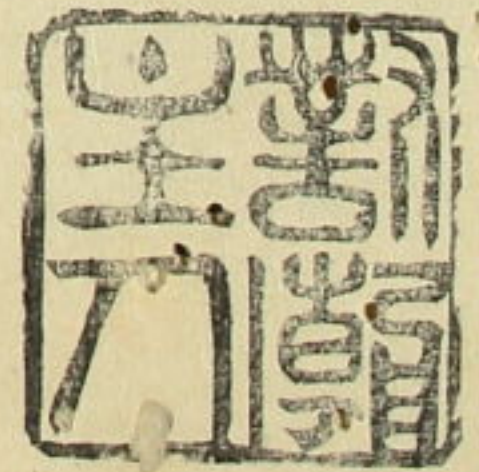
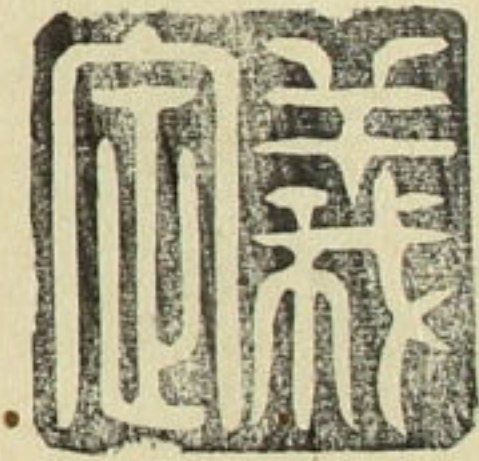
予載敢厲懲之，以勗其首云。

時天明強園協治乙秋。

福浦叙一千道人撰。



門下 萬潮書



辭世

心為一火也

身之

花桂

南無阿彌陀

行年四十有七歲
天明六丙午孟夏
廿五日終焉法號

森花良桂居士

追悼

帰らぬの書

乃大矢敷

西疇

行昌宗跡に

帰る所を

池月

惜しむるに

蓮の南

其園

又

人も

夜舟

連

か

亭之

遠

乃

佳水

弟好く比まき

夏急掃むる所に

蓮登

明安記初の如き

まゝにしかる

千鶴

かゝる如く

結ぶる如く切念仏

一之

かゝる如く結ぶる如く切念仏

董威

之流川

角一子如帰

蘆洲

まゝに世や白家

まゝに山人妙

柳枝

孫子名や思つらむ

後西仲

龜觴

情むらさ

さく清にくり青嵐

艸鼓

春枝葉をかりん

や五月雨

采虹

初 松 紋 孔

なまの お連を

滄洲

悼

席の死に留皮人々

神代

教子に己身と悲し時多

照車

全

学此笑山をふき

竹の葉の露

全

逸山

悼亡誄

短衣ハ何ふはしらへの惜哉

福良

度月

おとすも桂常にもいひを好
くあふまはくふう性にもと人
の身目をあつちり斗にも卯月
未のひはるも永くあふの初め
おとす人半もいひとて侍る

其人に絞るやふの絞百合

全

良御

悼

涼むら梅さる蓮葉あて床儿也

全

以四

追悼

志雄風子の言ふお化屋
の舞舟に浅島舟なり
を猶憶ふとて侍りて

おとす

夢ら梅木に掛るも

全

楚調

全

惜母の魚よ筆も

全

春花

あつけいの争

五

花桂秀夫と笑ふふ子
天地の委和委蛻と云
ふ事と思ひ出

七ノ市

全

一千

くろく藤中右に
あは

輓花桂雅兄

棋方流の文に居せし
を世とあはし

残子名也

全

嗚乃粒由始末

沙茵

悼

日之記

全

南陔

名は記に壯事

全

彼岸に渡りも生

三条

故雄

まろ何れ

全

濁世を捨て

市

里仁

蓮の可憐

惜しきもの

二層の生るみや夏の露

中島

千鶴

常盤木も油断乃

あつたはるあつた

全

巴流

終にゆくそらに

ほろりたる

榎並

其友

雪消る探は申つ

牡若

秦

魯筌

花桂雅君予也之文子也
久しき性柔かにし
風軽にたひあつた
し更かりこもり
の五日燈り
を輝いたる
あつた
坐に
たは

侍侍

花をてて推涼

さうさ西明

全

白鳥

花をてて花桂君命終

乃告に花をてて

全

吾友

贈西粟散々〜長か〜

追悼

たりん名ゆり

都さ〜卯のむら

鮎原

天柱

手比の因〜

全長月庵

清をてて卯のむら

雨竹

眼をてて

追悼

惜むる

鼓音者

雨立

あ〜

全

短夜半をさうくく
月と入る

榎並

乙貫

惜いうちを桂英あはれ
月のうらみも命を
ふのとも待たぬ
あはれ会を
せうれし事さうみみ

吉田

東嘯軒

可耕

見書さぬ短夜半の爰に

えかふくれ

追悼

初も世を

みしうらみつ無常鳥

阿方

紫髯

全

葉さうらにせも何も
くはう

須本

野笛

若桂居士卒し給ふ
ゆき孝子の風本
吊ふ

音を響く

ふと世にあらはるゝ

阿万

佳木

追悼

秋

花枝の主卯月の比若名
のやあを年うしーや夏さ
陽に待来影に甘あゝあ
手向にもちあゝと急な
らぬ学もあゝ〜〜借
ふらあなり〜

手向にも

ちうもるやそれの一角

松帆北渚

巴洲

急桂乃ぬー四さぎ終
りてつ九八の卯月の比
きく遊このあゝあゝあき
も優りるんア者

秋

高屋

竹谷里

百非廬

其舞や二三手あ命を

あま

追悼

秋

具州水新橋本

猪狩

左雲

さくらん

うさぎのこころのあけ

筒井

さくらん人

可々

あれやい

追悼

古き乃新阿清に杖を
曳きし折る程始りし
えいかに夢はささるる
如く福もさるるに
さるるもさるる
いさむに辞さの
さるる

燈を六斗 乃乃乃
月明也
吾立

五彩堂

お直多の未つゝ花桂
子此物故を吊る

子向付と云

唯五七を直多云

五東庵

雲和

拜奠

い歳の暮り去れ且とを祝
しつゝ斯も多己に佳化
おとまじしを

五流齋

卯乃若に
おしかけはしを直

女媒

追悼 秋

有馬

置流の海にも路の
子向付

宗鶴

此函に訣を振るあや
而竹子^シあはははは^ハに
に届けしあはは桂^ハか
つあ人乃其あ、り御せ
られし^ハい^ハみ^ハの^ハ夕^ハ送^ハは^ハ
か^ハ御^ハ西^ハ時^ハ子^ハ予^ハに^ハも^ハ信^ハ懐^ハ
一^ハま^ハお^ハく^ハま^ハい^ハと^ハせ^ハ初^ハに^ハし^ハ
と^ハう^ハり^ハそ^ハあ^ハい^ハを^ハあ^ハを^ハ
は^ハら^ハち^ハ速^ハ届^ハた^ハ又^ハ言^ハお^ハを^ハ
ま^ハら^ハい^ハた^ハむ^ハも^ハ風^ハ物^ハの^ハ
ま^ハら^ハい^ハた^ハむ^ハも^ハ風^ハ物^ハの^ハ
に^ハあ^ハせ^ハあ^ハと^ハか^ハつ^ハけ^ハ侍^ハ不^ハ

新しやい

花乃物あは連

得雲舎
何齋

人形お時いあ^ハう^ハと^ハ是^ハ
北子の^ハと^ハあ^ハう^ハと^ハ天命^ハ
ま^ハを^ハ陽^ハを^ハ照^ハく^ハ鳴^ハ乎^ハ
惜^ハい^ハら^ハぬ^ハ

あまは

あまは

降初

那浪淡
廿

お妹子の池にございて
はやくそく之乃奴もり今
絶し此交の家の花を
く雲とより雨とあはれ
まゝまゝ南ぞ阿まのめ
とてあち遠くも穢ちを
信つり先い感しはい
く白川西野子、悔信

あゝ〜

折達み枝に

郭乙

阿波徳島

潮翁

